

[475] 節句働き？節季働き？ 続・気になる日本語（7）

(25) 「節句」も「節供」も日本語

一、三、五、七、九の奇数を陽とし、月日ともに陽となる日を特別な日として重視する考えは中国のものだが、一月一日（のちに一月七日）、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日の五日をまとめて「五節句」とするのは日本のもののようだ。

それに「節句」は古くは「節供」と書き、今もこちらが使われることもあるようだが、「節句」も「節供」も中国語ではなさそうだ。節供の「供」はこの日、特別な食べ物を供えて祝うところから当てられたものに違いない。

「節句」「節供」に似た語に「節気」「節季」があるが、それぞれに異なる。

(26) 怠け者の節句働き “懶汉节日忙”

セックとセッキは発音が近いので、わたくしなどもうっかり言いまちがえることがある。

先日、ラジオの文芸番組を聴いていたら、どこかの大学の先生らしき番組の司会者が、何度も「怠け者のセッキ働き」と言っていた。繰り返していたから、たぶんこの人は「セック働き」ではなく「セッキ働き」なのであろう。

「節句働き」は解説するまでもなさそうだが、一般の人がみな休む節句の日にことさらに忙しそうに働くことをいう。「怠け者の節句働き」をどういふか中国の知人に聞いてみたところ、首をかしげているので、一通り説明したら、それなら“懶汉节日忙”でしょうとのことであつた。直訳に近いが、なかなかうまい。それとも、もともと使われている中国語なのだろうか。

(27) 絶品、小さんの『睨み返し』

「節季」は季節や時節の終わりをいう語で、特に歳の暮れを指していることが多い。旧時の商習慣では、盆と暮れに勘定を締めくくるのが普通であつた。と書いたら、突然五代目小さん師匠のあの人なつつこい丸顔が思い浮かんできた。

『睨み返し』。本当にそんな商売があつたのかどうかは知らないが、^{おおみそか}大晦日、どうにも金繰りがつかない亭主に代わって、一言も口をきかずにつぎつぎと借金取りを睨んで追い返すのである。戸口にドカッと腰をすえて、きざみたばこをきせるで一服一服吸いながら待ち受けて……。よしませうね、落語の解説をする場所ではありませんから。でも、よかったなあ小さん。小さんはもう聴くことができないうが、小三治ならまだ間に合う。でも、この師匠小生と同一年だから、なるべくお早めに（笑）。

(28) “端午” “中秋” “年关”

今日掛け売買の決済は月ごとに行われるのが普通であるが、かつては盆と暮れであつた。もっとも、^{かみがた}上方では三月の上巳、五月の端午、九月の重陽など、ほぼ2か月ごとに行われていたようである。

中国ではどうであつたか。こちらも時代や地方によって一定しないようだが、最も一般的なのは例の『孔乙己』に描かれている端午、中秋節、大晦日である。

以前にも引いたことがあるが、『孔乙己』の結びにこうある。

自此以后，又长久没有看见孔乙己。到了年关，掌柜取下粉板说，“孔乙己还欠十九个钱呢！”到第二年的端午，又说“孔乙己还欠十九个钱呢！”到中秋可是没有说，再到年关也没有看见他。

我到现在终于没有见——大约孔乙己的确死了。

2016/11/4